県外在住のお子様を持つ保護者に読んでもらいたい「にいがた暮らし」情報誌

新潟生活

niigata seikatsu 第28号 2016年8月発行

目次
教えて先輩! ● 地域での「ものづくり」を探して 人とのご縁がすべて
特集 ● 世界が注目! 新潟が誇る“ものづくり”の魅力

～お子様が帰省された際に親子で将来を話し合ってみてください～

教えて先輩! vol.53

地域での「ものづくり」を探して

嬉しさと葛藤の先に

大学卒業後、新潟県内のメーカーに就職。大学で学んだ知識も活かせる部署で充実した日々を送りましたが、県内の拠点のひとつが海外に移ったことがきっかけで、「小さい輪の中で循環するものづくりはできないものなのか」と考えるようになり、退職することにしました。

その後、知人の紹介で江戸時代から続く家具店で勤務することにし、今までとは違ったものづくりを勉強する日々を送りました。どんなに立派で丈夫な家具でも、長く使っていれば、傷もつくし壊れます。でも捨てたりせず手入れをすることで、その家具を「育てていく」んです。共に時を重ねていくというか。そうすると傷も味になるんです。

「使い手の人生と共に、時を重ねていけるものをつくる。使い手とつくり手が顔の見える距離でつながっている。」ぐるぐる回って私の辿り着いた答えは、心の奥にあった「小さい輪の中で循環するものづくり」の思いと変わりませんでした。

新潟には世界に近い技術がある

自分なりの答えを持ってUターンしたのは、2015年6月です。知人の勧めやご縁が重なり、同年8月から三条ものづくり学校の事務局長として働いています。

仕事は多岐に渡り、施設の管理・来館者向けのイベント企画など、今は技術者としての立ち位置ではなく、ものづくりの川があるとしたら、源流の方にいるのかなと思っています。

今後は、県外でも三条のものづくりに触れてもらい、発信できる仕組みをつくりたいですね。ぜひ、高校を卒業して、新潟を出た人たちに見てもらい、世界に近い技術がこの新潟にあると知らせたい。出たからこそ感じることがきっとあると思いますよ。

■三条ものづくり学校

「働く・学ぶ・遊ぶ」をキーワードに、“カッコイイものづくりの職人”の世界観を次世代に開くため、アイディアやデザインなどを加え、子供や学生、次世代の三条市を担う若者たちに、ものづくりの魅力を体験してもらうワークショップや地域交流イベントなどを開催している。
三条ものづくり学校HP http://sanjo-school.net/

斎藤　広幸さん（31歳）
三条ものづくり学校　事務局長

地域 三条市（職場）

新潟市出身。高校卒業後、大学でプロダクトデザインを学ぶ。卒業後、メーカーで設計や企画を担当。7年間新潟・東京勤務を経て退職し、その後、長野市の江戸時代から続く家具店で1年2か月勤務。契約期間満了に伴い、2015年6月新潟市にUターン。知人の勧めもあり、同年8月より三条ものづくり学校事務局長として、新たな関わり方でものづくりに向き合っている。

教えて先輩! vol.54

人とのご縁がすべて

背中を押してくれるもの

大学を卒業し、憧れのカルチャー雑誌に携わるという夢を叶えたと思ったら、リーマン・ショックの影響で雑誌が廃刊になり、会社自体がなくなることになりました。なんとか仕事を探し、東京で働くことにしましたが、半年ほど経った頃、実家の状況が変わったり、プライベートの整理も重なり、Uターンを考え始めました。けれど、「いつかは」と思っていたものの、なかなか決心ができず、東京にいる新潟出身の友人たちに相談に行きました。共通して「いつか帰りたいけど、東京で結婚し、タイミングが合わなかった。早く帰っておけば…」と言っていて、それで決心がついたというか、背中を押してもらいました。

でも今思ってみれば、背中を押してもらいたかったから、そう言ってくれそうな人のところに相談に行っていたんじゃないかなと思います。

旅する音楽との出会い

その後、職を得て30歳の時Uターン。東京にいたときの経験も生かせ、充実した日々を送っていましたが、自分に良質な問いや答えを与えてくれる存在であるカルチャーの情報に枯渇していました。

そんな時、大分県由布院で開催された[旅する音楽]というイベントに行ったら、その音楽や空間の全てがすごく沁みて、心が震えたんです。その時の感覚が忘れられず、長岡で開催するべく関係者に連絡を取り始めました。

しかし、当時の仕事との両立が難しいと気付き、以前から面識のあった保険会社所長に相談したところ、「うちに来ないか?」と誘っていただいたんです。そこから約半年悩みましたが、どんな話も受け止めてくれる所長の存在と、私の思う保険の価値感と、働き方を大きく変えてくれた今の会社に魅力を感じ、転職を決意しました。

それからは仕事をこなしつつ準備を進め、今年1月「旅する音楽　長岡篇～Waltz of the Snow～」を開催しました!本当に大変でしたが、たくさんの方の協力があって開催できたので、感動もひとしお。

私の場合は、人とのご縁がすべて。今は学生時代の友達以上に、Uターン後に知り合った方が大勢います。そのご縁をぐーんと広げてくれ、自分の軸を整えてくれた長岡は、とっても楽しいですよ。

伊部　良美さん（35歳）
外資系保険会社／旅する音楽長岡篇　実行委員会代表

地域 長岡市

長岡市出身。高校卒業後、東京の大学に進学。卒業後は、念願のマスコミ業界に就職し、憧れていた雑誌の仕事にも関わることができ充実した日々を送るが、いずれ地元に帰るつもりだったことと、家族や仕事のタイミングが重なり、30歳の時にUターン。ベースの仕事をしつつ、「旅する音楽長岡篇」実行委員会代表や雪国くらしかた研究所研究員など何足もの草鞋を履いて活動している。

ポータルサイト「niiGET」では、「教えて先輩」で取材した方のさらに詳しい内容を公開中! アクセス ニイゲット 検索

世界が注目!

新潟が誇るものづくりの魅力

新潟には、日本の産業や文化を支える“ものづくり”を継承、発展させる方々や企業がたくさんあります。
今回は、その“ものづくり”の分野で活躍、奮闘している方々から“ものづくり”に込める想いなどをお聞きしました。

ものづくりを通じて和紙を守りたい

オリガミデザインの“ものづくり”

制作している製品には、和紙や折り紙など、日本的なものを意識的に詰め込んでいます。和紙は日本らしい素材であり、紙としての強靭さは世界でも類を見ません。折り紙も日本伝統の遊びで、幾何学的にも美しいものです。そういった日本的な素材や手法で“ものづくり”をしたいと考えていました。

和紙との出会い

池山●金属製品のデザインを深く勉強したいと考え、大学院へ入りました。しかし、金属を加工するためには様々な設備が必要です。それに比べて紙は加工しやすい。金属加工の試作品は紙で作ることが多いので、もともと素材として紙を使うことに抵抗はありませんでした。

大学院在学中に小国和紙に触れる機会があり、その強靭さと見た目の美しさに興味を持ちました。初めに作ったのは、その丈夫さを活かしたカードケースです。金属よりも加工しやすいため、和紙の特性を活かした製品のイメージが次々に膨らむようになり、それから和紙を中心に製品開発するようになりました。

よしだ●故郷の白鷹町（山形県西置賜郡）で深山和紙が作られていることもあり、子どもの頃から和紙に慣れ親しんでいました。大学進学で長岡へ来て、小国和紙に触れたり、夫から和紙の話を聞いたりすることで、改めて和紙の素晴らしさを感じるようになりました。

和紙の美しさ

和紙の美しさは、その独特の風合いや質感だけではなく、和紙の歴史や文化といった“物語”にも備わっています。

特に、小国和紙の中でも小国紙と呼ばれる和紙は、江戸時代から変わらない製法で作られています。400年以上も変わらず、全ての工程を人の手だけで作り上げる製法が守られてきたことにロマンを感じました。

▼カードケース

▲和紙のおうちライト（絵柄は、よしださんのはんこによるもの）

守りたい

高齢化や後継者不足で紙すき職人が減っています。そして、さらに深刻なのは、紙すき道具を作る職人が全国を探してもほとんどいないことです。当然、紙すき道具がなければ、紙すき職人も和紙を作ることができません。伝統文化は緩やかになくなっていくものだと漠然と思っていました。しかし、あと10年、20年でなくなってしまう可能性があると知り、強い危機感を抱きました。これほど魅力的な日本の伝統文化を絶やしたくない。そう強く思うようになりました。

和紙の“物語”を終わらせないためにも、私たちの分身でもある和紙製品をもっと広めていきたいと考えています。私たちの“ものづくり”を通じて、和紙の素晴らしさを多くの人に知ってもらいたい。そうすることで、和紙の普及、継承に少しでも貢献できればと考えています。

▲わこけし灯

オリガミデザイン
代表 **池山　崇宏**さん

長岡市出身。長岡造形大学で工業デザインを学ぶ。勤めていた金属加工会社を退職して2009年に同大学大学院へ入学。大学院在学中に小国和紙と出会い、様々な和紙製品の開発を始めた。2011年に立ち上げたオリガミデザインの代表として、小国和紙の普及に努めている。

オリガミデザイン　http://origamidesign.info/

オリガミデザイン
よしだ　まゆみさん

山形県出身。長岡造形大学で工業デザインを学ぶ。現在は手彫りのはんこを制作・販売するほか、オリガミデザインの情報発信も担当している。夫でもあるオリガミデザイン代表の池山氏と二人三脚で、和紙を普及するために活動中。

オリガミデザイン Twitter　https://twitter.com/origamidesign_i

箸に込める卓越した技能と想い

“ものづくり”を始めて

もともと“ものづくり”をやりたいと思っていた訳ではありませんでした。マルナオ入社当時は利器工匠具（大工道具）の製造・梱包作業などをしていました。徐々にワイン雑貨などの製造も任せられるようになり、箸は約10年前から製造するようになりました。

初めの頃は製造過程で使用する機械に触れることが恐いと思うこともありましたが、仕事であれば何でもやるという気持ちでした。また、子育てしながら仕事をしていたので、製造を始めた当時はあれこれ考える余裕もありませんでした。

全ての工程が大事

確かに箸を削るのは手作業ですが、自分が職人であるという意識は全くありません。箸を作るのも、削る工程が注目されがちですが、それが全てではありません。削る前までの一つ一つの緻密な工程全てが重要です。全ての工程と、その工程の意味を理解しなければ、活かせるものも活かせなくなってしまいます。選別作業にしても、材料の硬さを見極め、どの製品に適しているか判断しなくてはなりません。黒檀や紫檀をはじめとした貴重な材料を使用しているので、とにかく無駄なく使うことを意識しています。

私もそうですが、マルナオでは女性が製造に多く関わっています。木は日々状態が違いますので、その状態を見極めて作業を進める必要があります。女性の方がそういった細かい変化に気づきやすいのかもしれません。

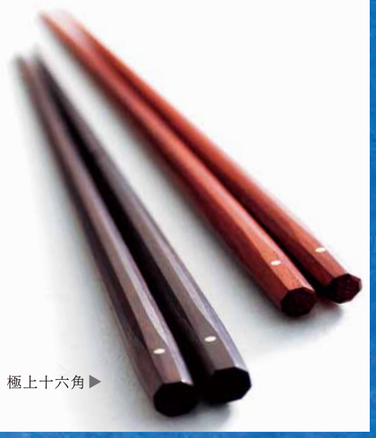
気持ちを大事にしたい

“ものづくり”をする上で、使ってくれる方の気持ちを大事にするよう心掛けています。私たちが作った箸を誰が使っても満足してもらえるように、全ての箸を完全な状態で出荷しなければなりません。手作業であるため、寸分違わずという訳にはいかないかもしれません。ですが、どんなに時間がなくても妥協だけはしません。材料自体に個体差があるので、サンプルどおりに作ることは非常に難しいものですが、それが面白いところでもあります。

商品の見た目も大事ですが、箸は道具ですから使いやすくなくてはなりません。使っていただいて良さを感じてもらえると、この仕事をやっていて良かったと思えます。

新しい挑戦

自分の趣味である「料理」を仕事に活かせればと思っています。例えば、箸やカトラリーをPRするための写真を撮影する際などに、自分が作った料理をコーディネートすることで商品をより魅力的にPRできれば嬉しいです。日々の仕事に追われて時間的な余裕はありませんが、今後はそういったことにも挑戦していきたいと考えています。



極上十六角▶

マルナオ株式会社
堀川　貴子さん

三条市出身。燕市や東京の企業で事務職を経験後、2003年にマルナオ株式会社に入社。利器工匠具の製造・梱包作業などと並行して、2007年から箸作りを始めた。現在、十六角箸を作ることができるのは、福田社長と堀川さんの二人のみ。

マルナオ株式会社　http://www.marunao.com/

工場の祭典

期間：2016年10月6日（木）～10月9日（日）

今年で4回目となる「燕三条　工場の祭典」。金属加工の産地として名高い燕三条の様々な工場が開放され、職人の手業を直接見られるなど、“ものづくり”を体感できます。そのほか、職人との対話やワークショップに参加することもできます。

イベントの詳細や最新情報は、「燕三条 工場の祭典」オフィシャルウェブサイトをご覧ください。

HP：http://kouba-fes.jp

Facebook：https://www.facebook.com/k-oubafes

新潟県U・Iターンコンシェルジュ

- 転職のエキスパートが、東京と新潟からあなたのU・Iターンを強力にサポートします!
- 豊富な新潟県内の企業情報をもとに、ご希望の仕事を見つけます!
- 住居や学校など生活に必要な情報を提供します!

お友達紹介キャンペーン実施中!

新潟県へU・Iターン就職したいお友達、ご家族等をご紹介ください。

新潟県へのU・Iターンをお考えの方、まずは登録を!

登録は **http://www.niigata-uitc.com/**

または 新潟 U・Iターン コンシェルジュ 検索

お問い合わせ・お申し込み

新潟県U・Iターンコンシェルジュ事務局　株式会社パソナ　パソナ・新潟
新潟事務局／〒951-8068 新潟市中央区上大川前通7番町1230-7 ストークビル鏡橋3階
TEL●025-374-7410(平日 9:00～17:30)
東京事務局／〒100-8228 東京都千代田区大手町2-6-4 パソナグループ本部内
TEL●03-6734-1358(平日9:00～17:30)
Email●k.niigata@pasona.co.jp

全世代向けU・Iターンポータルサイト

「にいがた暮らし」もお役にたちます

詳しくはhttp://www.furusato-niigata.com または「にいがた暮らし」で検索!

世代別に必要な情報や、市町村情報が充実
- 世代別の「にいがた暮らし」情報
- にいがたの魅力
- 市町村情報
- 移住体験談のご紹介

にいがた暮らしのご相談はコチラ
東京に常設している新潟県へのU・Iターン相談窓口

にいがた暮らし通信
情報をメールマガジンやダイレクトメールでお届け(登録無料)

にいがた暮らしのイベント情報が充実
首都圏でのにいがた暮らしイベント情報や、地域おこし協力隊募集などの市町村情報

新潟U・Iターン総合サイト nii GET ニイ ゲット もご活用ください

詳しくはhttp://www.niiget.jpまたは、「ニイゲット」で検索!

働く・暮らすに関する情報が充実
9つのカテゴリーに分類されたサイト集で、新潟で働くこと、暮らすことに関する情報を掲載。

取材記事を好きな時にじっくり読むことができます。

ニイガタビト
週替わりでU・Iターンされた方や生き生き働いている方の声を発信。

就職 企業情報
新潟県内の就職・求人に関する情報や企業についての情報を随時更新しています。

合同企業説明会スケジュール
県内外で開催される新潟への就職に関する合同企業説明会の日程が掲載されています。

リンク集
新潟の仕事や暮らし、U・Iターンに関する情報満載のサイトがそろっています。

最新の新潟情報も手に入ります。

オススメ情報
グルメ、イベント、ボランティア活動などとっておきの口コミ情報です。

Uターン情報誌

「新潟生活」と「新潟Uターン情報」をセットで**無料送付**しています。

新潟生活
- 新潟にU・Iターンした先輩の体験談
- 新潟の豊かな暮らしや魅力的な仕事の紹介
など

新潟Uターン情報
- 新潟県内企業の紹介
- 就職活動の動向
- 就職ガイダンスのお知らせ
など

送付をご希望の方は、ニイゲットでお申し込み、又は新潟県新潟暮らし推進課までお問い合わせください

お申し込み・お問い合わせ

新潟県新潟暮らし推進課
〒950-8570　新潟市中央区新光町4番地1
TEL025-280-5112(直通)